16日　南昌 ―― 杭州

早朝飛行機にて南昌空港発、正午杭州着
杭州は中国でもその風光明媚なること随一の地、
――　　　　の眠れる廟は西湖のほとりにあり。
西湖は保養地として景勝は内外に知れるところ、"西湖三潭印月"
（ふるさとの座敷に掛かっていた）などの綿織で幼時から知っていた西湖は巨大な人造湖で、湖上に浮ぶ
島々や石燈籠、それに柳色青々たり ―― 今は冬で緑は見られないが、
の並木などが影を落すさまは、夕映えも佳し、夜景も
佳し、日中のさまもまた佳し、である。
宿舎の杭州飯店は、立派な堂々たる建物で、西湖畔にあり。
窓から西湖の風景がひらけていて、背後は小高き丘陵地帯で、
そこは歩いて30分ぐらいで頂上に行き着くが、ピクニックコースでもある。
右隣りには（歩いて5分ぐらい）外人専用の友宜商店 ―― みやげ物屋
その隣りに　　　　の廟が在る。
ともかくとして、日本への帰路は上海から来路と同様船旅をとること
にしたので、日程の都合にて、この1ケ月以上にもなぶ学習の息抜
きも兼ねて来たわけである。
上海の船便がまだはっきりしないが、予定としては20日頃になりそう。
この杭州から上海へはほんの一息の所で、自動車では3時間
でゆける。ここで息抜きしながら、学習の総括をして船の風待
ちといったところである。
杭州湾もすぐ近くで、気候も温暖で、九州と全く同じ。
樹々や草木も心なしか我がふるさとと同様なようである。
そこで、ここまで、言ってみれば、やっと辿り着いたような気分になる。
又一同帰心も里心つきたる次第なり。
今日までの強行軍 ―― 学習と旅の ―― は珍しい事物と向学心を
満足してくれて、退屈どころでなく、今ふりかえってみれば、全く
あわただしく過ぎてしまった。　今このホテルの窓から、一息ついて、
西湖の遠景に目をやって故国を思う気持ちには一感、慨の深く有り。

午後　三艘に分乗して、この杭州市革命委員会副主任の人と一緒、湖上遊覧
に出る。船上であつきお茶をすすりながら。　又湖中の島に上陸、
散策す。この島が即ち三潭印月の島なり。
夜、ホテルにて新作映画「南征北征」を観る。

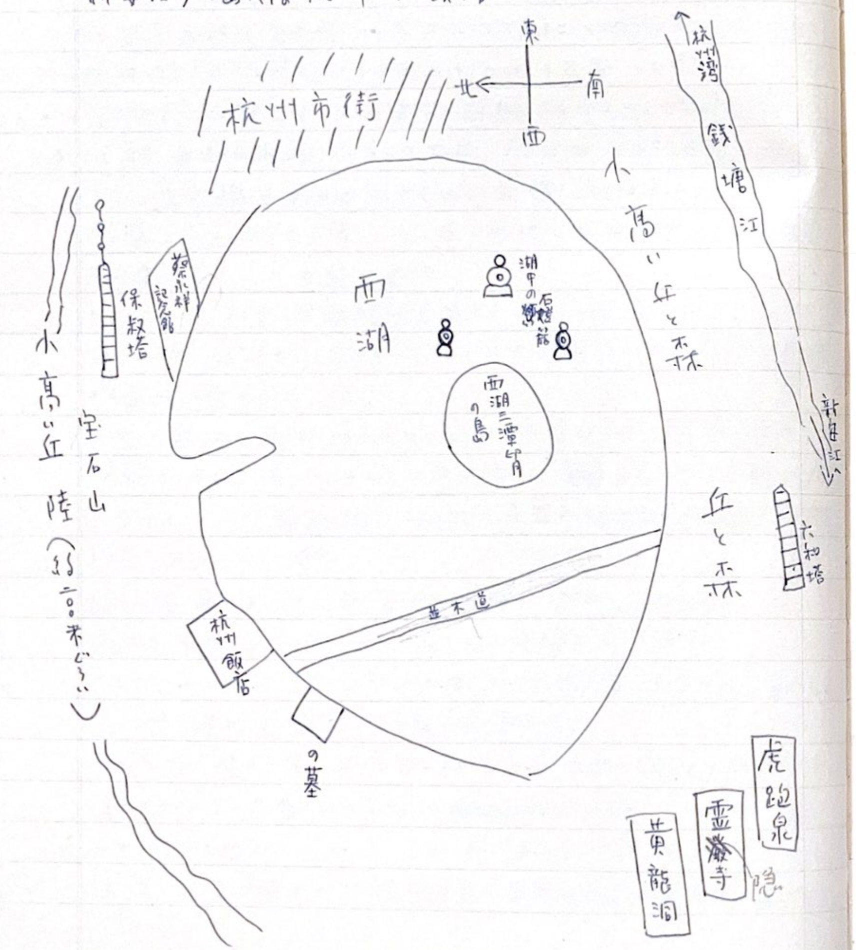
就寝前、風呂に入る。このホテルは（外人専用）大きい。しかし、泊り客は、今は
シーズンオフにて他に外人（アルバニア人）数名と我々のみ。
従って風呂もわざわざ沸すというほどのものでなかったらしく、特別に
ボイラーをたいて沸してくれたらしく、どうぞというわけで、いい気分に
なってはいっていたら、半分ぐらいで、冷水になり、慌てて出る。
半還えりで、湯ざめする。これも一興なり。

17日　　杭州 ―― 新安江（泊）

A.M.8時
午前中　すぐ近くの蔡永祥烈士記念館参観、
昼食後　自動車にて新安江ダムへ向けて出発。
　　夕刻4時到着、
夜　7時から3時間、新安江ダムの案内部、王さんから講話をきく。

新安江ダムへは杭州から銭塘江をさかのぼってゆく。

西湖概観の図



〔蔡永祥記念館〕

列車妨害事件があり、その警備についていた蔡永祥は身を挺して列車を守ったので、――枕木を線路上に並べて妨害されたので、それを発見した蔡永祥は迫りくる列車を守ろうとて妨害物を除去して、列車にはねられ死亡した。　その列車には紅衛兵が（北京に向う）のっていた。
すぐこの近くでの事件で、新安江ダムへの途中その現場へ立ち寄る。
蔡永祥は66、2入隊、両親、兄、2人の弟は健在、
犠牲後　兄、蔡永胜は66.11.5、弟の意志を継ぐために入隊した。
そして今は"五好戦士"となっている。
彼の兄弟をよく教育して解放軍に入れたいと両親は語った。
66.10月頃の情勢は、文革の高潮期にあった。
従って妨害もひどかったので、このような事件も発生した。

（班長・兵士の話）　　24才
安徽省蕪湖市出身、66.10入隊、貧農出身、
"毛主席思想是没私立公的"と私は思う。
実戦演習の際、火焔放射部隊にいた私は、機器の事故のため周辺にいた人たちに被害が起るのを恐って死を顧みず防火につくし、28%以上の火傷を負った。　限られた能力しかないが、毛思想を遵守することは限りないものだ、一生を捧げなければならぬと決意している。
67年堤防建設にいったときも、左手は動かないから肩で土運びをした。
毛主席の革命路線のために生き、守るために死んでもよいと思っている。

（副班長・兵士の話）　23才
悪い修養をいかに批判し、毛思想をいかに身につけるようにしているか。
65、3入隊、寧波出身、　この前何もしらない少年期から、隊長、同僚に導かれて毛思想を学び輝ける共産党員になった。　例えば三家村グループ

の話などをきいて、私は激怒した。私の家の歴史を考えてみた。母親は
その昔10才のときから編物工場で働いた。両親は話してくれました。
党と毛主席は私たちを解放してくれたのです。
走資派の連中は、このようなProletaria階級の指導者、毛主席を、
その地位からひきずり下ろそうとしたのです。

67.4.1 党内の最も強力な走資派をつまみだした。
私は放送局へ投書し、大字報を作り、毛主席の功績をうたい上げ
劉少奇に対する憎しみを強めた。
この1年間、100編の批判文を書き、25,000字の日記も書いた。
昼間は分隊長をしているので忙しいから夜に仕事をした。
徹夜したりしてこの仕事をしていると、疲れて私心雑念との斗いと
なる。もし敗れれば魂を失い、生きる希望を失うことになる。
筆を銃として斗った。

67.4.1「売国主義か愛国主義か」の論文がだされて進軍
ラッパが鳴りわたったときに心は勇んだ。
――党員ハ規律ノ範囲内デ個人ノ利益ヲ考エルコトガデキル――
――公私融化論―― 等々の黒い修養（劉少奇著・
共産党員の修養を論ず）は、赤い紙で黒いものを包んで大衆に
売り渡すことです。革命戦士の斗志を腐蝕しようとしたのです。
Ideologieの領域を腐蝕し、党、政府、軍隊の権を自分
のものにしようとしたのです。
老三編を照魔鏡として黒い修養書を照らすと、これがいかに
党員の魂を喰い荒すものであるかがよく分る。

67.12月 杭州市指導部は私に中学校の軍事訓練の任務を
与えた。この工作の際、完全に大衆に依拠していないことに気が
ついた。それはPetit Bourgeoisの流毒にやられているから
大衆を惧れていたのだ。
毛主席は云っている。―― M.L.主義者が大衆ヲ惧レルト云ウコトガ

有リウルカ、若シ有ルナラ、ソノ者ノ心ノ中ニマダ鬼ガイルカラダ、
而シテソノ鬼ハ悪質デナク必ズ克服デキル鬼ナノダ。
私心は走資への土台であり、修正主義の芽生えである。
「斗私！」によって「批修」ができるのだと思う。

〔新安江水力発電所について〕

夜 7.00～10.00 郭、王 さんの話

自力更生の思想に導かれて 1957. 7 着工、1960. 4 完成。
地質、探査、設計、施工 すべて中国人民の手によって建設された。

規模 652,500 K.W.
発電機 9基 ……1基の能力 72,500 K.W.
使用発電機 6基
装備中のもの1基、未使用 2基

供給範囲
上海、杭州附近の工業その他用

主なる建造物
堤防 ……完全なコンクリート 高105 m 長462 m
発電工場…… 独特なもの 屋上溢流式
世界でも珍しい。革命的な胆略に従って建設した。先人が登れなかった山に登ったのである。
工場内には水力発電機が設置されている。
昇圧所 ……高圧変電機
220,000 V に昇圧する。
高圧電流のスイッチ所
交通関係……道路等 ……建設資材、発電機などのため鉄道線路を引込んだ。
水江の面積……580 km²
水江の奥行……160 km
貯水量……満水 178億 m³ (1,780万トン)
工程……約3年
10,000,000 m³の土石を掘り出した。
1,700,000 m³のコンクリートを打ちこんだ。
(15階建のビル 130ケを造れる)

資本主義、修正主義よりも短い期間で完成できた。
この発電所の建設一切を通じて毛思想の偉大な勝利であり、毛主席の指示のおかげだと思う。

(如何にしてこの思想を発揮したか)
第1に 生活態度。
第2に 人力、技術力。
作業員は約10,000人が各地から参加した。従って住居、食事について先ず困難があった。
この辺は、荒野と山と川だけで、殆んど村もなかった。
先ず大衆を組織して毛著作学習をやった。
そして衣、食、住のすべてを自らの手で解決した。
竹と材木を山から切り出し、簡単な住宅を作った。
労働者を組織して老三編の学習をした。一部の者は思想上問題があった。
特に大都市から来た人にそれが多かった。学習を通じて思想が改善され、斗志健固になった。
ベチューインのように、その精神を学ばねばならぬ、と努力した。
ベチューインは中国の革命のために命を捧げた。我々は自分の国のためにやるのだから、ベチューインに申訳ない。こうして大きな意気込みで本工事のための準備をした。
元来、半年かかるつもりの準備工程を三ケ月で完成した。
本工事で先ず第一の困難は、人員とくに技術員のすくないことでした。
工事経験者は3,000人だけ、あとは殆んど農民が多かった。
この条件の中で、実践を通じて、――行イナガラ学習シ、学習シナガラ体得スル、―― ことを旨とした。
現場で教える方法をとった。こうして10,000人の労働者は、すべてダム工事技術者に変っていった。
彼等の多くは現在、小型水力発電所を全国各地の人民公社に建設し、製粉、製米所の電化を推進している中核となっている。

工事機械、とくに大型の機械はすくなく困難だった。
東洋と西欧の結合で、西欧のワクを打破して、自らの道を切り拓いていくことを決心した。
工事の初期に於て、ボーリング機は1台しかなく、これではどうしても不足だった。大型ボーリングの替りに風力を利用した手動の機をつくり、それで20～30mの穴を掘れるようになった。
これで進行も早くなり、コストも安くできるようになった。
（大型機では1mにつき50円、手動機では7～8円）
1958年頃、毛主席は建設の新指示（三面紅旗）をだされた。
広汎な労働者は一年繰り上げで完成するようにというスローガンを出して努力した。
もう一つの困難は、3mのコンクリートを打ちこむと、20日間、間をおかねばならぬという制限があり、これでは期間が長びく。
そこで科学的実験と革命情熱の結合とで試行した。そして20mの厚さができるようになった。
最も困難な工事は、59年に起きた。自然の洪水、山くずれ、と斗うことだった。春に洪水がきた。10数回あったが、特にひどかったのは、2回、作業現場は全部埋没した。
そのときは40時間前に洪水がくることをきいた。この時間内で、大事な機械を総動員して救わねばならぬ。
水に高い山の頭を下げさせるということであった。30数時間の苦斗の後、機械を救った。そのあと20時間で洪水はやってきた。
復旧するのは1週間を要し、昼夜兼行で作業した。
パンをかじり、水をのみ、作業を続ける沢山の労働者の姿には感動させられた。如何なる困難に遭遇しても、毛思想でやれば克服できないことはないということを身を以って分った。
こうして予定より1年8ヶ月くり上げて全工程を完成した。
現代修正主義と帝国主義は、毛主席の自力更生、三面紅旗を否定し、我々に屈辱を与えた。

1962年、我国では一時的に困難に際していたとき、ソ連と、アメリカは偉大な三面紅旗を攻撃した。
1962年4月、ソ連修正主義の指導者スースロフは、その反華報告の中で、具体的にこの新安江発電所を攻撃したのです。
新安江の工事に於て、ソ連専門家の技術指導をうけないために、山くずれを起し、多数の死者をだしたと、デタラメな報告をした。
確かに山くずれはあったが、怪我をした者さえ一人もいなかった。
山くずれの前に亀裂を発見していたので、警戒区域を設け、安全見張員もおいていた。山くずれは夜中の2時頃だったし、人は全然いなかった。スースロフの嘘を発かねばなりません。
というのは、ソ連の技術専門家は1人もいなかったのです。
だからソ連の提案などありうる筈がないのです。
何故、スースロフが、この山くずれのことを知っているかというと、この山くずれの後、3ヶ月ぐらい後にソ連技術者が、ここに参観に来たことがあり、その際山くずれのことを紹介したので、彼等が上級に報告するごとに、こんなデタラメな観念論の結果となったのでしょう。
これは決して偶然にそうなったのではありません。
そのことは、ソ連の従属国に自力更生をさせまいとする表われです。
もし本当のM.L.主義者であるなら、アメリカ帝国主義と結託して社会主義国を攻撃はしないでしょう。
だから帝国主義に反対するなら、現代修正主義に反対しなければならぬことの謂はここにあります。
中国人民も毛主席の教えに従って、日本人民が、アメリカを追い出し反動政府を打倒することができると、信じています。
日中両国人民は団結して帝国主義、すべての反動派を打倒しようではありませんか。

18日　新安江 —— 下涯人民公社 —— 杭州

朝8時から1時間ぐらい発電所、ダムの施設参観。
そのあとすぐ自動車で杭州への帰路にある下涯人民公社の参観。夕方4時頃参観を終って日もとっぷり暮れて7時近くに杭州に戻る。

新安江ダムは、その規模の大きさと工法など —— とくに新中国初の大規模なダムとして世界にも有名なものの一つである。最初はこのダムの技術指導をソ連からうけることになっていたらしい。それが例のソ連の総引揚げで言うに言われぬような苦汁をなめさせられたらしい。例えば機械類などは当初はソ連の物で設計していたのが急に突然にとり止めとなったため、必要以上の混乱を生じさせ、半ばに作りかけていたものは全く無駄になってしまった。それだけに技術者の歯をくいしばって自力更生の結果、完成したこのダム発電所の喜びは大きかったようだ。それが説明の言葉の端々にも表われていた。

下涯人民公社は、我々が中国の農村らしい いわば辺びな山中の農村を参観したいという希望が叶えられ、急に予定を延ばして実現したもので、外国人の参観は初めてという訳で、そういった意味でも、この村の人たちからは珍しがられもした。山間地の散村的な農村で、数十個の集落が中心になっており、一体に高地で、数十メートル下に —— 段差になって —— 大きい川があり、その水を利用できないので、今までは水田耕作ができなかったそうだ。
それを、それこそ自力更生でやり上げて、揚水することに成功し、そのため地質も改良され、今は、山あいに小さな耕作用ダムの建設中であった。ともかく、素朴なこの村人たちの心に、中国人民数千年来の悠久たる人民の心をみたような気がし、そして、そこに新しく拓かれてゆく いわば科学的時代の曙をも見ることができたように思う。北京郊外の人民公社とは又異った意味で、とくに中国の古来の心にふれたような気がした。
揚水施設やダム建設など、かなり、ピクニックみたいに歩き廻ったせいもあって、心身ともにすがすがしい気持ちで、僕たちは皆、満ち足りた気持ちで帰路についた。
村の人たちが、いっぱいでて、夕暮れの見えなくなってゆく中をいつまでも手をふりながら送ってくれた。
杭州への帰りは、広々とした中国大陸に真紅の太陽が沈んでゆくのが自動車から眺められ、今我々は中国大陸の一角にいるんだという気を強く感じた。
その大きな真紅な太陽は、東方紅、ならぬ西方紅であるけれど、その大地に沈みゆくさまは、まさしく現代中国のシンボルにふさわしいものであった。
昼食は、村の人たちが最上の心ずくしのものをご馳走になっていたが、予定より帰着が遅れたので、腹はペコペコになって、杭州に帰り着いた。まさしく健康的でもある。
本当に今日一日は楽しくも、充足感も一杯であった。

上海からの船便は数日延びるらしい。金さん達が、上海と連絡をとってくれている。

〔下涯人民公社〕　A.M. 10.30〜P.M. 3.

（副主任の話）

戸数 2.100	人口約10.000	
生産隊 11	生産大隊 108	
~~耕地~~ 耕地	7.780 畝 (mu)	（15畝＝1町歩）

1畝当り収獲量　（2キン＝1Kg）

解放前	400 キン
1962年	800 〃
66〃	939 〃
67〃	1.023 〃

毛思想に頼って解放され、文革以来毛思想を活学活用し、新しい思想に高めた。文革後社員は起ち上り村の内外で文革を討論し、国家の大事に心をよせ、人々の魂深く毛思想ははいっている。
例を挙げると、81才のおばあさん（陳ライ玉）は革命の学習班に参加し、トウ村の唖の人（トウユウコン）は毛主席をたたえる絵を書き、貧農の口さんは（3才の女の子）語录の歌を10数曲歌える。
6才の子供が家の屋根に上って「中国ノフルシチョフ打倒！毛主席万歳！」と叫んでいた。その子のおばあさんが危ないと思って下りなさいと云うと、その子は「ばあサンが止メサセヨウト云ウナラ、斗ウゾ！」といった。
1967、12月 紅い政权（革命委员会）が成立したとき、結成大会に集った人たちは6.000人でした。
我が公社のすばらしい情勢の表われであります。
仕事を始めるときは、四ツの文字——語录、歌、——、——、を用いることにしている。

15 华里 ＝ 7.5 Km

女の子が冬に遅く起きるとき、心の中に太陽がある。三人のじいさんたちは歌えなかった。彼らのおかみさんたちに、何故あなたは歌えないの、他の人は皆歌えるのに、と笑われた。毛主席の语录の歌は皆歌え~~ます~~ますよ。早く起きて練習すればよい、と云われた。しかし今ではもう二ツ歌えるようになった。
公社の90％以上の人は文革斗争に参加している。古参貧农のある人は、青竹へビ、黄ヘビは毒が強いが、中国のフルシチョフの心の毒は、これよりもずっと強いといいました。
毛思想学習班はウゴの竹の子のように生れて、100個余りの班ができた。つまり毛主席の本が心を離れない、というすばらしい現象が表われています。

二ツの路線の斗いについて

走資の司令部を砲撃するという大字報が、この村に伝ってきてから、断呼として批判を始めた。ひと握りの走資派は中央から末端にいたる所で白色テロルを行った。
生産小隊長以上の干部は、生産に従事させられず、生産は落ちた。
毛主席の革命路線——解放軍の支援の下に、我々はBoulgeois反動路線の下からおどり出たのです。
下層中农たちは反面教師として、これらのことを批判した。
この公社では、前後して60回ぐらいの批判大会をもった。
四人の最も苦しみをもっている古参貧农を組織してオルグをして、大会で告訴した。
农村に於ける中国のフルシチョフの罪をあばきだした。
こうして造反派の隊列は大批判斗争の中で、鍛えられて95％以上の社员を団結させて革命的大連合が結成できた。
我々は干部に対しても正しく対処して解決した。——悪い干部はひと握りの者でした。
1967、6月から干部を解放することを始め、遂に革命的三結合が結成

された、
第三の問題は、斗私批修を要として毛思想学習を盛んに行うこと
です。 7,000人余りの人たちは教育をうけました、
ある大隊では90%以上の大人が学習班に参加した。
ある千安という大隊にいる彼女は、ずっと頭痛もちで、生産に参加
したことがなかった。しかし文革の中では学習に参加し、老三篇を
学んだ。彼女はベチューインのことを話した。そして1,000分の
仕事をした。(分は作業量の単位) 而して持病もよくなった。
ある生産大隊の人は、老三篇と自分の思想を回顧して、解放前と
余り変っていない現在の自分の思想のことを思って、夜もろくろく眠
れないくらい考えた。
そして夜中に奥さんを起した。奥さんは「貴方ハ気狂イジャナイ
ノカ?」といった。
正月のアメを作る米(31キン)を無駄にしないように節約して、国家に
売り、全世界の解放を支援したいと云った。
雪が降っていた正月に、ある大隊の貧農の3軒が薪がなくなった。
それを聞いて誰かが夜にその家に薪を置いていった。
今もって誰がしたのか不明です。
毛思想は、貧、下層農を保護している。
1967年に100日間の旱魃があったが、食糧増産は
610,000キンもできた。
「大寨」にならって107畝の開墾をした。
五つの山を越し、7つの曲りを通して3.5Kmの水路を作った。
285mの水路パイプを谷間にかけた。傾斜は30m。
ある日故障して水が出なくなった。これを修理するのに毛思想で
武装して管の中にはいりこんでやった。
この1年間この公社では毛主席の最高指示で、思想、経済、政治
のすべての面で勝ちとる決意です。

(52才の貧農のばあさんの話)
私は幼い時、学校にも行けず、文盲でした。それを老三篇が読めるよう
になり、暗記もできるようになった。いかにして覚えたかというと、毛主席を
敬愛しているからできたのです。何故敬愛しているかというと、私たちが
衣、食、住にこと欠いていたのを救ってくれたからです。だから毛主席の
書いた老三篇を読んでいるのです。
そして学習班を組織しました。先ず小学校の先生に紹介してもらった。
人民に徹底的に奉仕することを学んだ。
しかし4人のグループはそれ以上読めなくなった。皆文盲だったから
です。先生は云った。とにかく徹夜してでも暗記することです。
この老三篇は戦士も干部も皆覚えているのです。
林彪同志の教えのように、毛主席の教えを活学活用するのです。
ある日、ある旅人が旅費もなく困っていた。私は老三篇を思いだ
して、どうしようかと考えた。
そのとき、私の生産大隊は経済的に余り余裕がなかった。
そこで印を売って金を工面すればよいと思いついて、近隣の人たちに
話して、一緒に印を売り、旅人に旅費をつくってやった。
1966年、文革の初期のことでした。
井岡山に向う紅衛兵のうちの2人が疲労して寄った。
三人家族でベットは三つしかなく、納屋に一つは置いていたりしたも
のだから、子供のベット一つしかなかった。それに紅衛兵を寝か
せてやった。子供はまだ訳が分らないものだから泣いた。
それで話して説得してやった。
又ある日、上海からの紅衛兵がやって来て紹介されて、私の家に
泊った。初めは遠慮して夕食をたべなかったが、あなたたち
は同じ階級の子供だと云うと、彼等は食べた。
ある日、20才ぐらいの気狂い女が通りかかった。雨で寒い日だった。
ズボンをはき替えさせ、どこの村の人か尋ねて私の家につれ

できた。　そして濡れていた上衣を娘のと着がえさせてやったが、
もし彼女がこの上衣を返さないかもしれないと思うと、心の中に小さな
斗争が起きた。　しかし人民に奉仕することは、完全に徹底的に
やることだと思って、彼女の家まで送ることにした。
そのとき、彼女のお母さんが探しにきて、どうも有難う、有難う、
と云って、餓死していたか凍死していたところを云って　お礼を云った。
私は「私ニ感謝シナイデ毛主席ニ感謝シテ下サイ。ソレハ
毛著作ヲ学習シタカラデスカラ。以前ノ私ナラ、コンナコトニハ
無関心デシタデショウ。」と云った。
私のやったことはまだまだ不十分で、学習もよくないが、これ
からも特に運用について努力していく決意です。
毛主席は教えています。——それは斗私批修、擁軍愛民、戦争
準備をして、実践の中で毛主席に熱愛を表わそうと思いました。
それには、五ツの㊕を持つことです。
——①思想を持ち、②語录を持ち、③バッヂを持ち、④語录のカード
を持ち、⑤ ______
そしてこのことを実践・実行してゆきたいと思います。

（黄牛生産大隊の人の話）
私は全くの貧農で、一ツの家も土地もなく、解放によって幸福な生活ができるよ
うになった。　家族一同喰うやくわずの生活だった。
合作が始められ、今では油、肉など何でもあるようになった。
1958年社会主義建設路線に導かれて人民公社への道へはいった。
1958年の三面紅旗に照らされて、養豚場——メス豚80匹、その他
200匹、アヒル、ヒツジなどを持っている。
ソ連修正主義、中国のフルシチョフ、又三家の走資派によって、サンキイッポウ、
四大自由の黒い風が吹いていた。　そして集団養豚場を解散せよと
命じてきた。　私たちはそのとき3日3晩眠れなかった。
1962年ついに解散させられた。　集団場は貧農、下層中農にとっては
よいことでした。　子豚を各々分けて飼うことになりました。
720,000キンから900,000キンに増産されたほど集団飼場は肥料
の面でもよいことだったのです。　そこでこのことによって私たちは打撃を
うけたのです。
集団化されていた土地、山林を各々個人に分けることにしたのです。
それで皆は自分の山林の林木を切ってそこに自墾地を作った。
私たちはこの方法は問題があると思っていた。
そのとき毛主席の、階級斗争を忘れるな、という呼びかけがありました。
再び私たちは集団化して山林には苗木を植えました。
中国のフルシチョフは、ヌケヌケとサンキイッポウ、四大自由の政策は
農民の積極性を動員することができる。　しかしこれは下層を動員すること
ではなく、富農と地主を動員することでした。
私の黄牛大隊には1人の地主がいます。　彼は人を傭って6畝の土地
を開墾し、1,500キンの収穫をえた。　彼は共産党がきてから、私の
土地を皆に分けていたのだといっていた。　地主、富農の反革命の積極性
を導きだしたかが証明されるでしょう。
中国のフルシチョフは、資本主義を復活させ、以前の生活に戻そうとしたの

です．　しかし毛主席は、集団化を進めるよう指示しています．
農村は工業化、多角化を進めなければならない．
~~[illegible]~~ 従来の800.000キンから1967年には、1.170.000キンに増産された．
私たちは毛主席に限りない熱愛を示すのです．
私たちは三ツの(持)を実行しています．
—— 語録の歌、毛主席の写真、語録のカード．

19日　杭州

今日は一日休養日とした．
それでも、午前中は、外交学会の三先生も出席して、団の総括会議とし、いろいろな問題を討論した．
1、共産主义政党と社会民主主义政党．
2、日本社会党の功罪．—— 我々の立場と使命．
午後は散策で、ピクニックとドライブ．
宝石山、保叔塔、孤山などに行く．
ぽっかぽかしたような、淡い春先きのような気候で、山登りすると汗ばむ．
今までの一ヶ月からの緊張感が融けたような —— ガックリ感と、望郷、中国生活の慣れ感、—— などができたように思う．
だが、今すこしだ．最後まで頑張るべし．
春浅き杭州の西湖のほとりは楽しかった．

20日　杭州

午前中．杭州市第2中学校参観．
午後．~~ピクニック~~．杭州市浙江麻紡績工場参観
又，ピクニックへ．黄龍洞（大岩の壁や洞に仏像を刻りこんである名跡）
ずっと歩いてホテルへ帰る．

【杭州市第2中学校】

A.M. 8.50～

全校で28クラス．初級中学14．高級中学14 ｝生徒1,300名
職員114名（うち教師104名）

（教師及び生徒の話）　当校の革命委員会主任は生徒で，杭州市革命委の常任委員も兼ねている．

1966年.6月から休校（授業を停止）し，大批判を始めたが，反動派のために大衆は弾圧されて，20名の教師は斗争され，学内に追放されたりした．
66.8．毛主席の16ヶ条の発表，及び反動統司令部攻撃の大号令がでて我々は沸きたった．
66.8～10月まで二つの路線の斗いは激しかった．
10月に紅旗（13号）の社説の発表により劣勢から優勢に革命派は転じた．　このようにして毛主席の革命路線は大衆の心の中に入った．　67.1．上海委員会成立の励ましによって，日1日と発展し，解放軍の支援によって67.7.15　本校に革命委員会が成立した．
その後の本校での主たる任務は，大連合，三結合を固め，大批判をやることです．
全面的に授業が再開されたのは，67.10.14．中央からの指令により．67.10.23再開されました．

そして革命を引継ぎやることにした．授業の内容も以前のままで行っていたが，これは走資への道に通ずるのではないかと批判された．そこで1期間は先生も，生徒もどんな内容で授業すべきかを討論を重ねた．
6組の調査班を作って，農村，工場，解放軍にも行って研究し，
67.11.26の中央の指示――人民日報社説，授業調査をすべし――に従った．
その中で四ツの関係を認識した．

1．授業再開と革命の遂行は，革命を第1とすべし．
2．革命の大批判と文化の授業の関係は，大批判を第1とすべし．
3．革命的大批判と教育改革の提案との関係は，大批判を第1とすべし．
4．教師に対する認識は一致した．
　以前は学校は皆，Boulgeoio知識分子に支配されていたから教師もBoulgeois知識分子とみなしていた．
　しかし毛主席が指摘したように，大部分の干部，教師，解放軍に頼るべしと云った．
　そして教師というものに対し全般的に認識が一致した．
　そのうち次の三つのことについて一致した．
　a．教師の権力――Boulgeoio教師に握られていた．
　b．従来Boulgeois階級に奉仕していた．
　c．労農兵に門を開放すること．
　　教師は知識分子であるが，政治的にはProletariat階級に属するのだ．

教師は修正主義の遂行者であり，被害者でもある．生徒は被害者だ．だから一緒に批判することができる．大字報は大砲の一発だ．
このような正しい認識を教師，生徒は行った．全校で告訴会をやり，各学年，各組で告訴会をやった．合せて40～50回もやった．
大字報も大いにやり，黒板も使った．教育のどの面においても広汎に，

例えば教本の内容、作文の題、試験の方式に至るまで批判した。
例えば高級3年生は高い質の大字報を書いた。　それは、杭州市第7中学校17年間の二つの路線について（13.000字）というのを書いた。
初級中学3年生のある学生は、中学1年の国語の授業内容をすばらしく批判した。　そしてこの大批判を授業にて好評を博した。
全校のみでなく、パンフを作り外部へも送り好評をえた。
これらのことを基礎として本校では6つの内容を作った。　即ち教育改革については、目標、体制、年限、教師の来源、学校の按配、教育の方法 ~~等~~、について提案した。　これらは皆調査研究をした結果です。

- 目標 —— 労農に奉仕する。
- 体制 年限 —— 7、3、2、2 （義務教育）（技術）（労初）（高等教育）　三大斗争をへて高級教育をうけさせる（労働期間を設ける）
- 教師の資格 —— 学歴を問わず、労農の中から採用しても可。
- 学校の按配（規模）—— 500人ぐらいを単位とするのが最もよい。
- 教育の方法 —— 労農に目を向けて大衆と接する。

新学期に於ては、冬休み3日間後、思想と組織を整理した。
新らたに政治所（思想改善）、教務所（教育改革）を設けた。
指導の面でも強化した。　今は三結合でやっている。以前の教学研究組は不要で、学年の委員会も入れて三結合した。
政治所は政治指導員を置き、教師と生徒から構成し、又教務所も教師、生徒から構成した。
各級委員会も教師、生徒で一緒に作り、政治補導員を設けた。
教材については、以前のものは使用せず、新しいのはまだできていない。
「16ケ条の複雑なものごとを簡単にせよ」の精神に従って教材を作ることにしている。　例えば2年生の複雑なものを簡単なものに直して1年で使用した。
教育の方法は、教師、生徒一緒になって研究班を作り、その方法を検討する。
例えば科学など、工場の労働者を呼び、解放軍のことだと兵士を呼んで話を聞くという方法です。

授業の過程は、国語、数学、物理、政治、科学、体育、外国語（ロシア語、英語）
一日を三節に分けて授業をやった。
早、早読 ＝ A.8〜9　毛著作の読書
9〜12 ……科学（文化）
午後 ……教育改革について
全般的な授業の方針は、66.5.7指示に従ってやったのです。
文化を勉強するばかりでなく、農業、工業、軍事を兼ねてやらねばならない。
工業は工場に行って、農業は農村に行って、軍事は体育と結びつけて、更には解放軍に行きます。　政治については、派性を批判し、党風を学びます。
授業再開の後、革命をやることは、今まで三皇五帝の昔からやったことのない前人未踏のことをやっているのです。
教育革命をやるかどうかは、毛思想に忠実であるかどうかのことであり、修正主義と帝国主義は、我々の失敗を待っている。　毛主席のために栄光をかちとることです。　教室を戦場として、ベトナム支援のためにも、日本の佐藤を打倒するためにも、立派な教育革命をやる決意です。
教育制度についての提案は、討論、批判、実験の段階であり、最終的には中央で統一して施行されます。

進学率　（杭州市）

初級中学への進学	85%	
高等 〃	70%	75%
専門学校 〃	5%	

今年からは小学校卒業生を全部初級中学へ進学させる。
67年から小学校入学を6才にした。　二部授業もしている。

教育の基本的。　三大斗争 ＝ 階級、生産、科学実験

疑問
・煽動したというのは、具体的にどんなことをしたのか。
・造反派のうちの二派か
・欠勤——サボタージュしていた者は、何をしていたのか。自宅に待期していたのか。

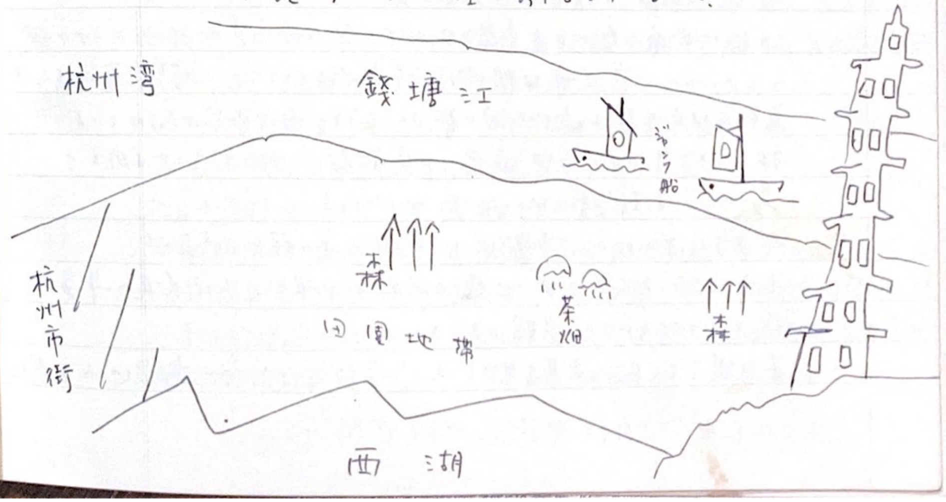
〔浙江麻紡績工場〕 P.2.〜

（工場の規模）　紡績織機 700台　紡錘 10.600　年間生産 5.000万枚
面積 260.000m²　従業員 5.600人

（革命委員会の話）
Pro.文革の呼びかけに応じて66年 Bour反動路線を攻撃した。
67.11.16 本工場の広汎な大衆は、ひとにぎりの実権派から党、政、財、文の権利を奪った。走資派は保守組織を作り対抗した。67.1.一部の大衆をそそのかし、職場を離脱させ、経済主義を以って、邪まな風を心の中に吹き込んだ。このようにして生産に支障があった。革命造反派は奪権してから生産に力を入れ革命を遂行した。職場を離脱した一部の人たちによって、450.000枚の減少があり、自財に困難があった。生産をあげよとの中央からの指令に応じて短期間で所期の目標を達した。
第2期では、走資派の煽動により、アナキー状態になり、ひどいときは20％の職員が出勤しなかった。皆、敗北主義に陥っていた。この時支援にきていた解放軍が、目標額の200.000枚を達成できるかどうかは、毛主席に応えることができるかどうかによると助言した。皆で集会をもち、決意を固めた。北工場では50台が休止していた。他の職場の人も呼んできたりして、何とか補充した。このような努力によって第2期分の目標を超過完遂した。
第3期になると、斗いは激しく、二派は激しく対立したので目標達成に支障があった。この最も困難なことの解決として、食事交替の際も操業するようにし、又定年退職者も、心配だから工場に在るといって応援にきてくれた。
干部たちも日曜には労働した。こうして完遂できた。造反派は67.1の奪権の際増産、節約の計画をたてたのだが、——国家の計画よりも1.280.000枚多かった。——困難になったので、国家指示額でよいか、それよりも多い自主的目標額で達成するかで、論争した。結論として奪権の上で我々自身が樹てた計画額を果すべきだということになり、皆で努力して国家指示額は18日早く、又自主増産額を1日早く達成しました。この間二つの技術革新を行った。
68年に入ってから、毛思想学習班を作り、斗私批修として増産する決意を固めています。

21日　杭州

午前中、自由行動
午後 3時、虎跑泉、六和塔に散歩に行く。
まず自動車で虎跑泉という清水が湧出する水の名所にゆく。山あいの古寺といった感じの所で静かな所。京都の清水寺の山中のような所。この水は美味いということで、お茶を飲ませてくれる。お茶といっても、普通の緑茶である。しかしこの地方のお茶は、いわゆるマツリカ茶ではなくて、日本のと同じ。ただ我々日本人には味がうすいように思う。この地方一帯、茶の産地で、茶畑が多い。輸出用にもなっているとのこと。
そのあと、銭塘江を真下に見下す高台に建っている六和塔——大雁の塔に行く。古い建造物で（600年ぐらいと聞いた？）塔の中は真暗で、その階段を手探りで登り頂上に上り、銭塘江のゆったりとした大河の流れ。そしてその下流に海と合する所は杭州湾である。大陸と海の接する所である。
日一日と中国を離れる日がせまる。落陽のたまり日を浴びてホテルの芝生に寝ころんで、1時間ほど皆で何ということなくしゃべる。皆、少々気が抜けてしまったようだ（緊張感がとけて）。今日は一日、本当の休息日だった。メモをとることも全く必要なかったから。中国にきたおかげで、1日に3時間〜4時間ぐらい、ぶっ続けて講義を受け、メモをとったりすることに慣れてきた。長時間全く休憩なしでも、飽きずに落ちついて座っておれるようになった。



22日　杭州 ——— 上海
汽車
（2時間半）

午前　杭州竹器工場及び桟綉工場の参観.
午後. 6時20分杭州駅発の汽車で出発. 上海駅着 9時
~~前回~~の　飯店泊.
上海分室（外文学会）の李さんが, なつかしげに出迎えてくれる.
上海は二度目の来訪なので, 勝手知ったる気持ちで心強く懐しい.
上海の都会的な明るい夜景も又懐しい.

〔浙江竹器廠〕参観　A.M. 8.30～
杭州は竹林の名産地なり.
1954. 建設された.
毛主席の指示に従って最初, 手工业の合作社をつくった. 最初は貧しい13戸で出発した. この組織後の困難は, 資金. 工場設備もなかったので, 僅かの資金, 貧弱な設備から出発したのです.
生産を始めてからの第1の矛盾は, 需要に合致しなかった.
貧しい手工业者の集りであったから, 人民に奉仕する精神は割に頭にはいっていた. そこで5人の古参グループで, 技術改善等を研究し, よい製品や芸術製品も生産できるようになった. 現在では 140名（女子 53名, 見習 28名, 事務管理者 9名）の職員がいる.
このように発展したのは毛主席のおかげです. —— 費カナ工业ニミナケレバナラヌ. ——. 大衆は限りない創造力をもっている. 技術革新をもした.
労働者は老三編を通じて胸に祖国を抱き, 目は世界に向けている.
私たちが, 生産することは, 世界の人民解放につながっているのです.
2/3の人民は搾取され, 圧迫されている.
農村に出かけて, 竹製品の修理を義務として行った.
古参の老いた人たちは, 心臓が動いている限り, 各国人民の斗争を支援すべきだといって, 退職しようとしない.
本工場でも Pro. 文革をやっている. 労働者は生産の意気込みを高めた.

中国のフルシチョフのやった修正主义路線を徹底的に批判した.
以前はその影響で経済主义的経営をやったこともある.
生産高をあげる人は思想も立派だという誤った思想を批判した.

賃金　最高 60円　最低 31円
見習工　1年目 15円. 2年目 17円. 3年目 20円.

〔杭州桟綉廠〕参観　A.M. 10.30～
杭州は古くから錦綉織の産地である.
本来この仕事は家庭婦人の仕事であった.
1956年, 手工业合作の高まりにより, 政治的にも解放され, 三つの班をつくった.（1班 12人）そして三つの生産合作社に発展した.
58年 二つの合作社を合併して紅霞合作社をつくり, 残り一つは西湖合作社へと発展した.
1958年 大躍進のとき, 技術革新もされた. そのとき場所も変えて現在の新工場を作った. 以前は国内向けだったが, 輸出もするようになり, 量, 質ともに進展した. 紅霞と西湖合作社は合併して, 今の杭州桟綉廠となった. Pro文革については, 毛主席の指示に従って大批判を行っている. 我々労働者は以前から貧困であったが, 大字報などを作って, 中国のフルシチョフの搾取有理論を批判し, トウ天の罪を告発した. 65年に比して革命に力をいれ生産を上げている.
このため 66年は 14%増. 67年は 28%増の達成ができた.
本来この製品は Proletariat階級に必ずしも奉仕しなかった.
Pro文革後は, もっと思想性あるものを作るようにしている.
毛主席の呼びかけに応えて昨年の国慶節に, 林彪は"要斗私批修"を唱えた. 我々は毛思想学習班をつくって学習した. 幹部の問題についても一連の新指示に従って, この幹部を解放し, 大連合して造反の革命委員会が成立した.（68. 1. 23）. 従業員 220名（うち男 20名）

賃金　最高 56円. 最低 27円. 平均 35円.

23日　上海.

いよいよ明日中国を離れることになった.　最後の1日はあわただしく過ぎた.
百貨店廻りなどして.市内を見物し、買物をする.
夜は.　外交学会の人たちと夕食のパーティをし.最後の懇談会をもつ、
夜は会食後、　金先生から講議をうく.
今更に.夜景の灯がなつかしい.　黄浦江に浮ぶ.船や、そのほとりを
散歩する人たちの群れ、　心の中で中国の満ち足りた50日間を感謝し、
友情に別れを告げる.

《金蘇城氏の講議》　　夜8時～

〔中国の国家財政について〕

（中国円）

60年度国家予算

収入	7,00億2,000 万円	国家予算	3,388,000 万円
		地方予算	3,614,000 万円
支出			

決算として　収入は　29%増
　　　　　　支出は　32.7%増

収入の財源

企業・事業収益	453.億円	64.7 %
税　収	243.6	34.8 %
内訳 商工業税	194.5	
内訳 農業税	33.	
その他 収入	3.6	0.5 %

収入の内訳

国営企業の利益.税	654.3 億円	93.4 %
人民公社からの上納金	41.0	5.9 %
その他	4.9	0.7 %

◎ 人民公社から国家への上納金（税）は1954年制定された.（全国平均）10%
　〃　　附加税（地方税）　　　　　　　　　　　　（　〃　）5.4%

◎ 農民が勤労者よりも生産性が低いため、収入がすくない、
こゝに労、農の格差がある.　これをいかに是正するかは.今後の重要な課題である.

支出の内訳

	予算額の
経済建設、社会、文化、教育関係.	73.6 %
国防費	8.8 %

◎ 1959～64年までの農業に対する貸付金は.100億円以上.

〔ソ連修正主義の資本主義復活の方向〕

他国へ援助する場合

- その国に牛乳製品のバター工場を作って、輸出用のバターばかり作らせた.
- その国が工場建設資金として.ソ連から借入した資金の返済に、その国の国家予算の5%をさいて支弁させ、元利金を完済したときは.古い機械しか残されていなかった.
- その国に工場を建設する場合、ソ連は先ず技術者の生活設備に重点をおく.従って中国のそれよりも建設が遅れる.
- ブルガリアは.果物をソ連へ輸出しているが、ソ連はブルガリアの重工業の発展を意識的に押えている.
（ブルガリアを農業国としていつまでも留めておき、ソ連だけが工業国として国際収益を上げようとしている.）
- ハンガリーのニッケル工業生産を押えてしまった.　ハンガリーに対して工業発展を阻止するため.原料としてのみ買取っている.　即ハンガリーに対して原料市場政策をとっている.　このほか.これと同様に.船舶建造については1,500トン以内しか建造を認めず.その他これに類する政策をとっている.
- 対中国借款問題 —— 36億ルーブル（14億米ドル）のうち.7億ドルは朝鮮戦争の際.ソ連から武器援助をうけたものの代価.
その当時スターリンは無償援助といった.　それをフルシチョフになってから返済を要求してきた.
そこで中国は1962年までに次の物資でもって完済した.

（21億ルーブル　鉱産物として
　14　〃　　　食品.大豆.油.肉 etc.

北朝鮮に対して、当時、中国は、この外に８億元(円)を無償援助している。
ソ連が返済を要求してきた当時は、中国の最も経済危機のときであった。
そして加えてソ連技術者の総引揚げまでした。そのため中国では、建設途中の工場などの設備が使用不能になり、莫大な損害をうけた。

ソ連修正主義の~~○○~~政策

- 青少年の非行化、社会秩序の不安。
- 映画などの頽廃。
- 1952年のソ連共産党大会で選ばれた中央委員のうち、70%は1962年の大会でフルシチョフにより粛清されている。
- ソ連の軍隊では、干部が部下に対し、文句ナク実行セヨ！ソウデナイト脊椎ガヨウニ棄テルゾ！と云っている。
- 警察力の強化、特に秘~~密~~密警察が３倍にもなっている。
- 職場での一長制
- 学生の実習アルバイト主義
- 市場の自由制。
- あるコルホーズの長は一般の十数倍の収入を給料としている。
- モスクワ郊外におけるコルホーズの自由地は2.25畝であったのが、現在は９畝となっている。
- 自由地の売買が行われている。全ソ連の自由地の生産量は、全生産量の1/3～1/2の生産高となっている。
- ジャガイモ 63%　果物 54%　肉 40%　卵 67%
- アイザニアのコルホーズの収入は、70%が私有地からのものである。
- 登録してある自由市場だけでも、7,200個所ある。(ヤミ市場は別)
- 都市供給の80%のジャガイモが自由市場からきている。
- 労働市場の自由化。

以上はソ連政府の正式発表資料による。

〔中国の工場70ケ条〕
—— 劉少奇グループによって公布制定された憲法である。——

§.6　政治を先行させることと物質の激励を与えることを相結合させて大衆の積極性を発揚させる。

§.26　すべて出来高払の賃金制を必要とし、又実行の可能性ある場合は出来高払賃金制を施行する。
その目的は労働生産性を発揚させるにある。

§.8　経営を簡素化することによって得る剰余の資金で、在職の職員の賃金を増やし、福利の増進を計ること。
工場長を主とする全工場の生産管理指揮系統を樹立して……
……全工場の生産が秩序正しく行われるようにする。

§.56　企業の党委員会は、積極的に、工場長を主とした統一的行政指揮系統の職権行使に対して協力すべし。
(註. ~~○○○~~毛主席語録 P.144 参照・党委員会の指導の項)

§.54　企業生産に対する行政工作の指揮は、工場長の責任である。

§.57　各職場の党委員会は、行政任務の遂行に対して、保障と監督的役割を果すべし。(それのみをすべし)

(以上はその典形的条文である。)

〔日中友好運動〕
- 中核的指導者としての立場。(我々はその任務にある)
  指導理念、思想を研究、学習すべし。
- 対象範囲
  その動機は何であれ、友好を願う人民大衆。

24日 上海港 —— 門司に向けて

昼食後ホテルを自動車にて出発。上海埠頭に向う。
岸壁にての別れ。見送れる人は 金、寧、陳、の三人と、上海支部の李、黄さん。
寒風強し。天気晴涼の中を一団輪になって、我々は一人づつ、自分の滞華中の学習をふまえた詩集を一句づつ朗読する。それも主席(毛)の！
小生は、ト.1の第二節、——革命ヲ行ウカラニハ……。P.403第二節——知識人が、マダ大衆ノ……を採んだ。
金さんたち一人ひとりと固い握手をしてタラップを登る。いつの日にか、この人たちへの感謝の気持ちが、今以上になって改めて確認されることがあろう、と思う。それは自分自身の問題でもある。
真理号 8.000トン。日本語の分る乗組員はいない。
午后3時半 離岸。船上と岸壁からインターの合唱。声のとどく限りサヨナラ！オ元気デ！と叫ぶ。とくに寧さんの若い声はいつまでも聞こえる。姿が全く見えなくなるまで手をふり続ける。
この二ケ月ちかくの間、接してきた偉大な中国の人たちよ！豊かな広大な国土よ！工作員の諸先生よ！
社会主義と中国に対して期待に胸をはずませてやってきた。そして今静かに船は岸壁を離れた。学習に満ち足りた想いを胸一杯にふくらませて、そして中国の人たちの友情と国際連帯の固い絆をしっかりと胸に秘めて僕は日本に帰る。我々は日本に戻って行く。
揚子江の東海と接するところ。丁度、夕映えの赤い陽に照らされた海上と大陸、ジャンク船があちこちに漂っている。
いつまでも、じっとその光景を見つめる。誰も余り多くしゃべらない。
皆それぞれの想いをじっとかみしめているのであろう。
ほんとにこの夕映えの揚子江の光景はうつくしい。もう薄もやに、肌寒さを感じて船室に戻る。まだ外海に出てはいないと云う。揚子江の下流は対岸がみえない。1時間ほどして外洋に出るらしい。
松本氏と黒田氏は各々特別室に。僕と原田君、平塚、野口君が、各々相部屋となる。真理号は一直線に日本に向けて走る。
五島の福江島が目標と聞く。
金蘇城さん、寧新さん、陳月霞さん サヨナラ！サヨーナラ！

25日 真理号にて

日本語はほとんど通じないが、筆談と英語で何とか用は足せる。
かなりの話も諒解できる。
明日の朝早く五島沖に到達するらしい。僕は五島の生れだと話す。
改めて荷物の整理と土産物を分類する。
部屋一杯に荷物を広げて、皆それぞれ、見せあって楽しむ。
やっと日本に我が家に帰れる心地になる。

26日 門司港着 —— 上陸

門司 —— 佐世保着 伊達宅泊

未明5時すぎ、やっと空も明るくなりかけている。甲板に出てみると灯台の光りがある。島ももう目の前に在る。
大瀬崎灯台だ。懐しき故郷を改めてみる。
祖国、それも我が古郷の島である。
三井楽の嵯峨島をすれすれに通る。漁船が数隻、まだ明りが朝もやの中にぼんやりと灯っている。
五島列島に沿って北上。福江島〜久賀〜奈留島〜若松島と、そして中通島の見覚えのある山々が見える。今日は曇って波浪がかなりある。
青方沖を通過。お父さんたちは、今頃起き出した頃だろう。
小値賀〜壱岐と対島の間を通って門司港の沖合い着 正午。
検疫などの手続きを済ませて上陸は2時すぎになる。
松本、黒田、平塚、野口の4氏はすぐ東京への汽車。原田君は近くの小郡行きの汽車へ。僕は加藤君を電話で呼びだして荷物を託して佐世保行きの汽車にのる。佐々の伊達宅着は夜9時すぎ。
門司駅で東京と、五島、佐々へ電話。

27日 佐世保 —— 五島

28日 五島にて 父母と共に過ごす。

3月1日 五島 —— 佐世保 —— 東京へ

3月2日 東京着 懐しの我が家着 正午過ぎ。すみろは父を忘れていて泣く。